

「薬の窓口」は過去の資料も含めてホームページで公開しています。参考にしてください。



今回は、抗菌薬を適切に使うことの重要性和薬剤耐性の予防について紹介します。

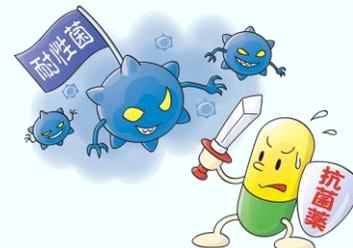
参考) 2023年版 減らそう薬剤耐性_内閣府感染症危機管理統括庁 患者のみなさまへ(感冒・急性鼻副鼻腔炎・急性咽頭炎・急性気管支炎)_AMR臨床リファレンスセンター

➤ 抗菌薬の適正使用と薬剤耐性の予防

感冒(かぜ)は多くの方が年に数回かかる非常によくある病気です。たいていの場合は自然によくなります。**抗菌薬(抗生物質)が必要な時以外は飲まないようにすることが重要です。**

抗菌薬は細菌に効果のある薬です。そのため、ウイルスが原因となることが多い感染(例、感冒、急性鼻副鼻腔炎、急性咽頭炎、急性気管支炎など)には抗菌薬は効きません。

また、**抗菌薬が必要と判断され処方された時は、指示された飲み方で飲み切ってください。抗菌薬を中途半端に使用してしまうと、菌が死にきらずに耐性化することがあります。**

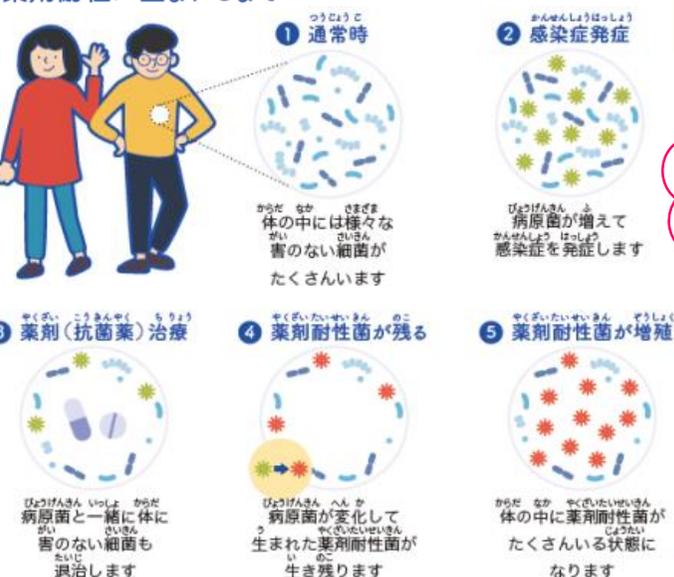


Q. 薬剤耐性 (AMR) とはなんですか？

A. 人から人にうつす病気(感染症)を引き起こす細菌に、細菌を退治する薬(抗菌薬(抗生物質))が効かなくなることです。

抗菌薬が効かなくなると、感染症の予防や治療が難しくなり、さまざまな医療を安全に行えなくなります。

薬剤耐性が生まれるまで



Q. 薬剤耐性でどんな影響がありますか？

A. 今のまま何も対策をしなければ、約30年後には薬剤耐性で1000万人が死亡するとみられ、がんで死亡する人数を超えるとされています。

Q. 抗菌薬(抗生物質)で風邪は治りますか？

A. 抗菌薬(抗生物質)は「ウイルス」が原因である風邪やインフルエンザなどには効果がありません。



抗菌薬(抗生物質)はウイルスが原因の病気には効果がありません。風邪の時には抗菌薬(抗生物質)を飲んでよくなってきたなと感じたなら、それは抗菌薬(抗生物質)の効果ではなく、もともとある体を守る力でウイルスをやっつけたからかもしれません。

Q. 薬剤耐性菌を増やさないために大切なことは何でしょうか？

A. 必要がないとき、抗菌薬(抗生物質)を飲まないようにし、抗菌薬(抗生物質)をだされたら医師の指示どおりに飲むことが大切です。

抗菌薬(抗生物質)は正しく飲みましょう



Q. すぐにできる対策はないのでしょうか？

A. 感染症を予防する(以下、①~③)ことで、薬剤耐性の予防にもつながります。

- ①手洗い、②咳エチケット、③ワクチン接種